

# 有明海沿岸道路(Ⅱ期)で縦軸路線が充実! 災害時等の交通環境改善にも期待!

- 有明海沿岸地域は、台風襲来や豪雨などによる浸水被害や高潮被害などによる通行止めが多い地域。平成28年熊本地震では、九州縦貫自動車道が通行止めになり、国道3号及び国道208号が混雑し、その迂回路となった国道501号も交通量が増加し混雑。
- 有明海沿岸道路(Ⅱ期)の整備により、災害時も通行可能な信頼性の高いネットワーク構築が期待。

## 平成27年台風15号は熊本市を中心に甚大な被害が発生



**熊本県被災状況**

- 人的被害: 31人(死者1人、重傷5人、軽傷25人)
- 住家被害: 257棟、非住家被害: 114棟
- 通行規制箇所: 170箇所

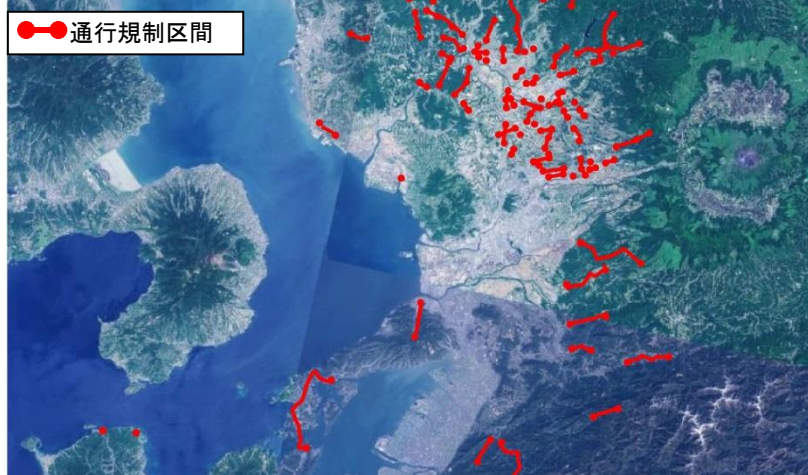


図1: 平成27年台風15号の通行規制区間

出典: 熊本県、国土交通省資料(有明海沿岸道路検討会議資料)

## 過去の通行止め状況

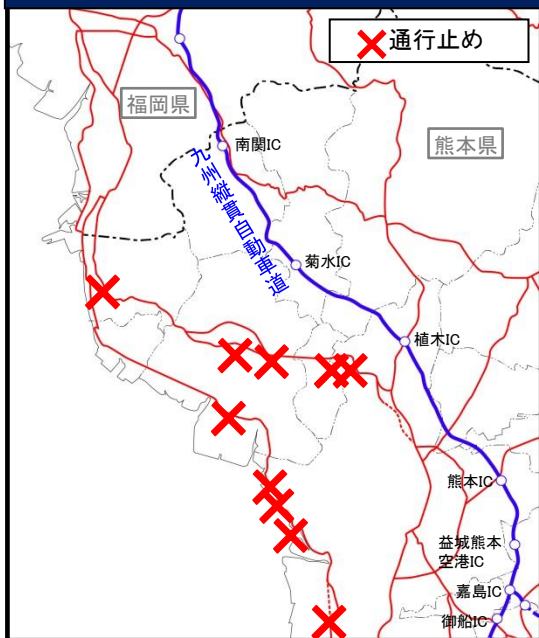


図2: 幹線道路の通行止め状況(H11~H27)

出典: 熊本県、国土交通省資料(有明海沿岸道路検討会議資料)

## 平成28年熊本地震で九州縦貫自動車道が通行止めとなり、国道3号や国道501号等が混雑

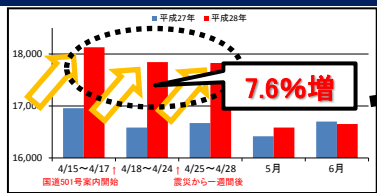


図3: 国道208号(荒尾市増永)の交通量変化 資料: トラカンデータ



写真2: 国道501号の混雑状況(熊本市南区中原町交差点付近)

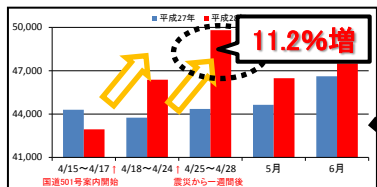


図4: 国道3号(熊本市南区南高江町)の交通量変化 資料: トラカンデータ



写真1: 国道501号の混雑状況(熊本市西区松尾町付近)



図5: 震災後の平均旅行速度(H28.4.16~4.21、昼間12時間)

資料: 民間プローブデータ

# 有明海沿岸道路(Ⅱ期)の整備で、九州西側縦軸の道路ネットワークが充実！ 有事でも安心・円滑な移動環境の実現！

- 福岡方面⇄熊本方面は九州でも交通量が非常に多い地域で大動脈であるが、交通ネットワークはまだ十分とは言えない【有明海沿岸道路(Ⅱ期)の区間がミッシングリンク】。
- 平成28年熊本地震により九州自動車道が通行止めとなり、多くの車両が国道3号に集中し混雑。そのため、国道501号を代替路として利用するも国道501号も混雑。
- 国道501号も混雑したため、通常時120分で到達していたルートが、地震後では最大260分を要した。
- 有明海沿岸道路(Ⅱ期)が整備され熊本環状道路等と連結すれば、震災時にも通常時と同程度の所要時間で移動可能になると期待！

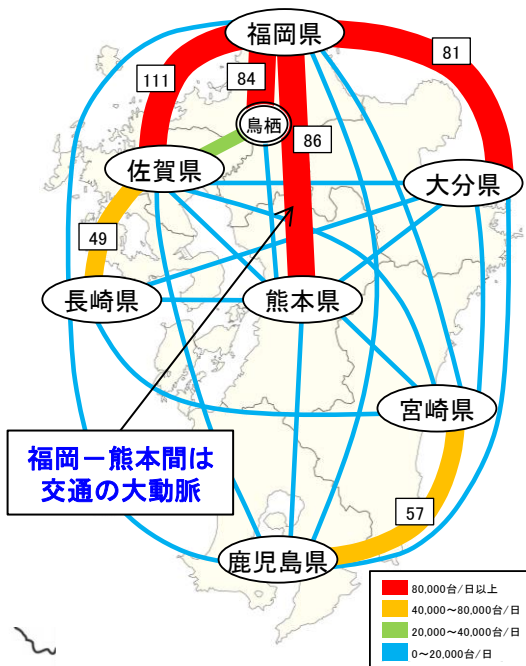


図1:九州の交通流動(自動車)  
資料:国土交通省 平成22年 道路交通センサス

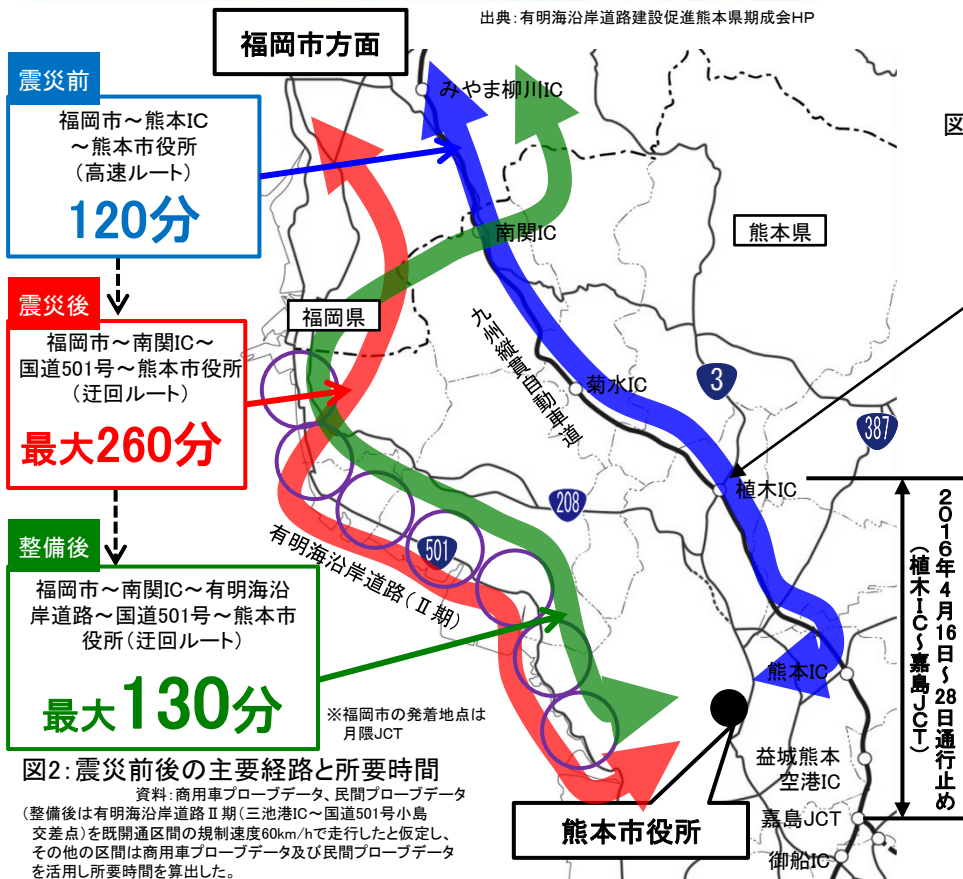


図2:震災前後の主要経路と所要時間  
資料:商用車プローブデータ、民間プローブデータ  
(整備後は有明海沿岸道路Ⅱ期(三池港IC~国道501号小島交差点)を既開通区間の規制速度60km/hで走行したと仮定し、その他の区間は商用車プローブデータ及び民間プローブデータを活用し所要時間を算出した。)



写真1:震災後の国道3号の混雑状況  
出典:熊本県道路3期成会HP  
平成28年度要望活動リーフレット



写真2:震災後の国道501号の混雑状況

# 有明海沿岸道路(Ⅱ期)の整備で、 製造業の出荷額増加等に寄与！

- 熊本県は九州でも半導体関連産業を初めとした多くの産業が集積(出荷額ベースで全国の約1割)。有明圏域定住自立圏+玉名市の製造品出荷額は、現在の約6,600億円(H26)から将来的には1兆円超を目指している。
- 有明海沿岸道路(Ⅱ期)の整備により、交通アクセスが向上し、半導体関連産業や長洲町の工業団地等の有明圏域定住自立圏の製造品出荷額増加に貢献！



図1:九州地域における半導体関連企業の立地自治体

出典:企業立地ガイドKUMAMOTO>主な立地企業

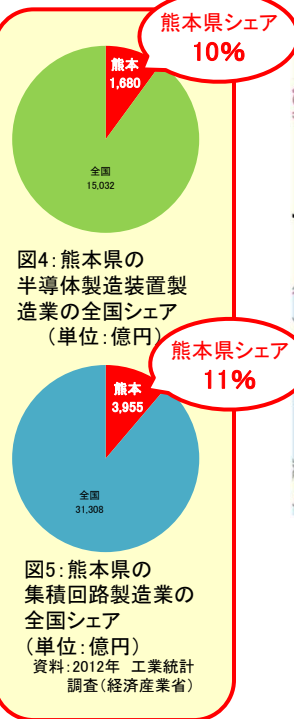


図2:有明海沿岸道路Ⅱ期の概略ルート図

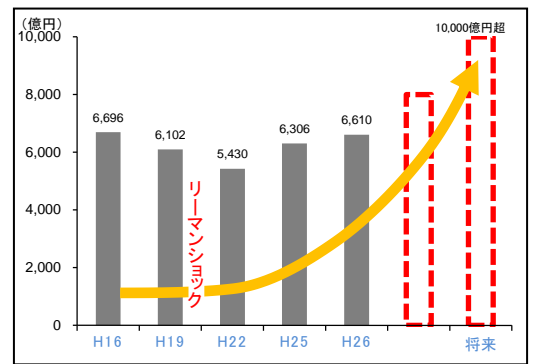


図3:製造品出荷額  
(有明圏域定住自立圏+玉名市)

出典:有明海沿岸道路Ⅱ期~未知の力を秘めた工業地帯~

## 有明海沿岸道路(開通区間)のストック効果事例 三池港への経済効果

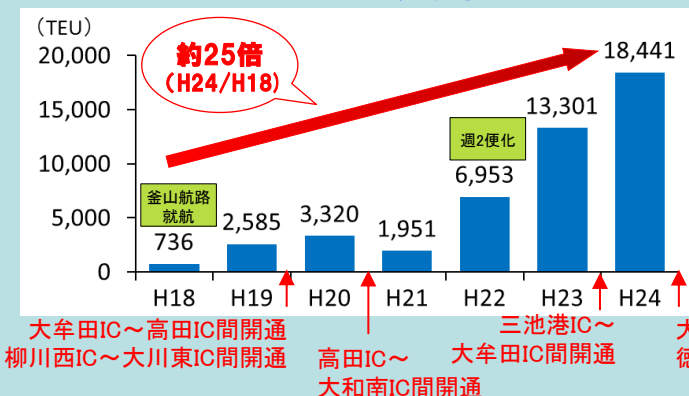


図6:三池港外貿コンテナ貨物量の推移

有明海沿岸道路供用に伴い  
三池港のコンテナ貨物量が増加  
平成18年度比で約25倍に増加

出典:九州地方整備局 事業評価監視委員会 有明海沿岸道路

# 有明海沿岸道路(Ⅱ期)の開通で、農業及び食品関連産業の活性化に寄与！

- 熊本県は農業産出額が全国第6位(平成27年)と農業が盛んな地域で、生産量全国1位の農産物が7品目。特にトマトは熊本県の野菜産出額の約3分の1を占める。また、食品関連産業の立地も進展。
- 有明海沿岸道路(Ⅱ期)沿線の玉名市はトマトの出荷量が県内2位であり、当該路線の南に位置する八代市が1位。整備によりトマトの出荷量のさらなる増加を期待！
- 有明海沿岸道路(Ⅱ期)の整備に伴い、農産物の輸送時間短縮、輸送コスト減少等の効果が期待され、その結果熊本県の農業産出額の増加に貢献！

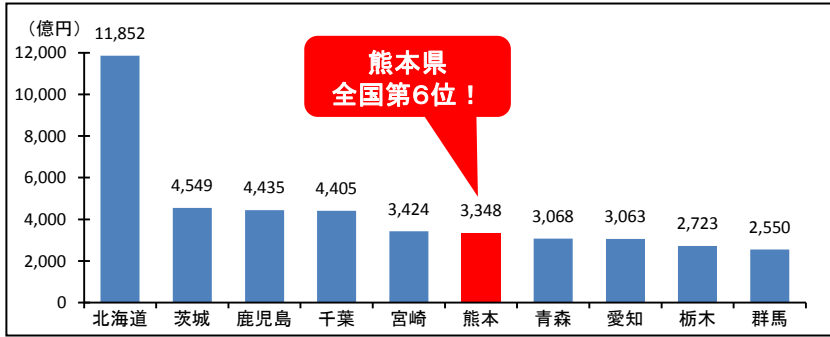


図1: 平成27年都道府県別農業産出額(上位10位)  
出典: 平成27年生産農業所得統計

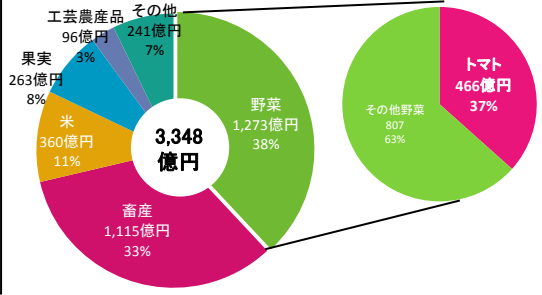


図2: 平成27年熊本県の主要農業産出額  
出典: 平成27年生産農業所得統計



写真提供: 熊本県青果物消費拡大協議会

**熊本県は生産量全国第1位が7品目！**  
『いぐさ、宿根カスミソウ、すいか、トマト、不知火類(デコポン)、なつみかん、葉たばこ』

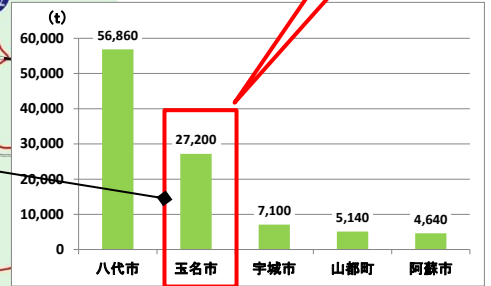
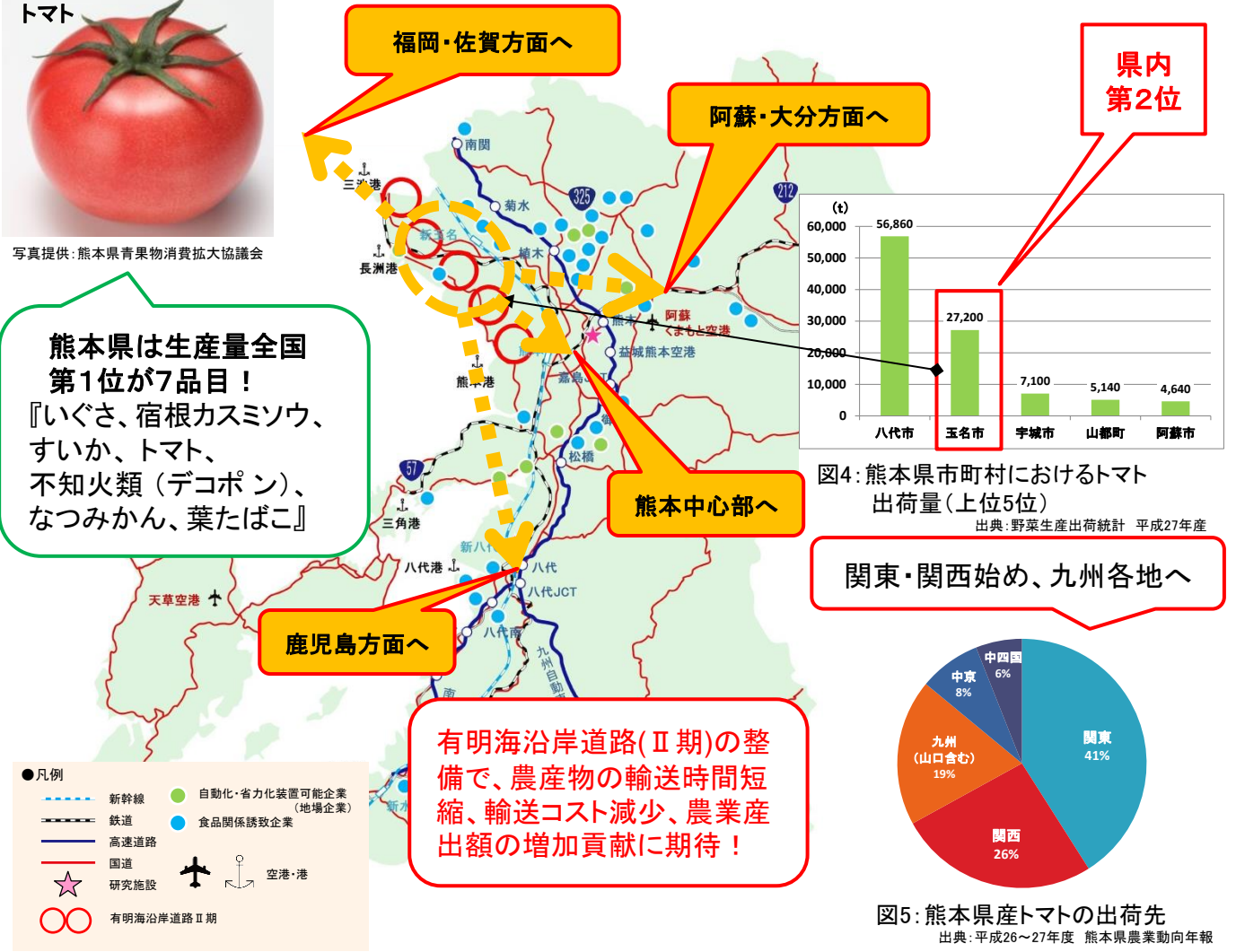


図4: 熊本県市町村におけるトマト出荷量(上位5位)  
出典: 野菜生産出荷統計 平成27年産

関東・関西始め、九州各地へ

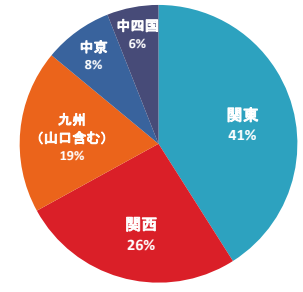


図5: 熊本県産トマトの出荷先  
出典: 平成26~27年度 熊本県農業動向年報

有明海沿岸道路(Ⅱ期)の整備で、農産物の輸送時間短縮、輸送コスト減少、農業産出額の増加貢献に期待！

図3: 九州地域における食品関連産業位置図(平成27年10月)  
出典: 企業立地ガイドKUMAMOTO 食品関連産業

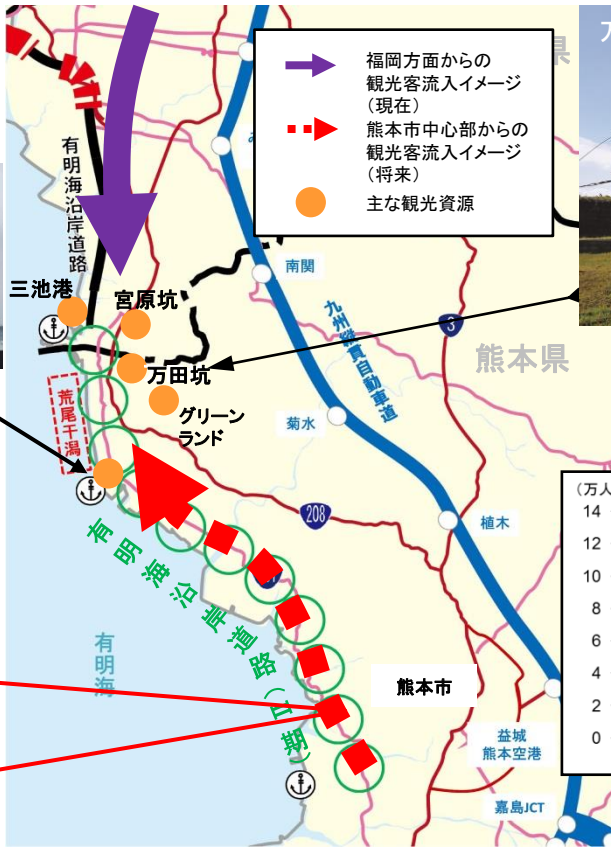
# 有明海沿岸部の観光資源や自然環境を対象とした観光活性化に寄与！

- 有明海沿岸道路Ⅱ期沿線地域は、世界遺産(万田坑・宮原坑・三池港)や観光・レジャー施設(グリーンランド、金魚と鯉の郷広場等)、自然景観(荒尾干潟)がある観光資源が充実した地域。
- 既に開通した有明海沿岸道路の整備により、福岡・佐賀方面のアクセスがよくなり、万田坑(世界遺産)の入坑者数増加(H23:2.3万人→H27:11万人)に貢献！
- 有明海沿岸道路(Ⅱ期)の整備により、熊本方面からのアクセス向上及び来訪客増加が期待！



長洲金魚

出典:くまもと写真館



万田坑(世界遺産)

出典:くまもと写真館

道路整備により、さらなる増加を期待！

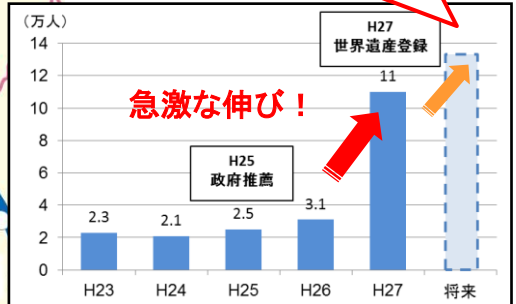


図2: 万田坑の入坑者の推移

出典:熊本県の観光客の推移(平成23年~平成27年)

図1: 有明海沿岸道路(Ⅱ期)周辺の観光資源位置図

## ■有明海の豊かな自然環境: 荒尾干潟

- 日本の干潟の約4割に相当する広大な干潟を擁した有明海は、多くの渡り鳥が飛来する自然豊かな場所である。加えて、ノリ養殖やムツゴロウ、ワラスボなどの特産種の漁業も盛んな地域である。
- 「荒尾干潟」は国際的にも重要であることが認められ、ラムサール条約に登録されている。

【ラムサール条約】

「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」である。ラムサール条約では、地球規模で移動する渡鳥を保護するために、国家間で協力して水辺の自然「ウェットランド」を保全することを目的としている。

出典:公益財団法人世界自然保護基金ジャパン



写真1: 夕暮れの荒尾干潟

撮影:西村誠



写真2: 有明海の海苔の養殖

撮影:西村誠